富山市民俗民芸村～呉羽山福寿荘横の露頭

民俗民芸村内陶芸館横の露頭

民俗民芸村の陶芸館の門を入ると、右側に垂直に切り立った大露頭が見られます。この露頭には防護柵があるので近づけませんが、裏手に回ると先程の崖ともとは続いていた露頭があります。この地層は、砂岩と泥岩が交代に堆積した砂泥岩の互層をなしています。50度以上の傾斜があり、水平に堆積した地層がどうしてこのように傾いたのかを考えさせると、隆起などの地殻変動について学習することができます。

また、この層内には、漣痕(れんこん)と呼ばれる波がつくった海底の凹凸や蟹の巣穴の化石を見ることができます。この地層が堆積した時代、民俗民芸村の辺りは比較的浅い海の底であったことが想像できます。

安養坊砂泥岩互層

漣痕化石

蟹の巣穴跡

福寿荘横の露頭

呉羽山の中腹にある福寿荘横の露頭では、風化した円い礫を観察することができます。この礫は、約70万年ほど前に扇状地堆積物として堆積したものです。 礫を構成する鉱物からClやSi、Na、Mg、Caなどの成分が溶け出し、化学的に変化を受けました。このような礫は「くさり礫」と呼ばれています。くさり礫が見られるこの層を「呉羽山礫層」と呼び、県内では中山間部でよく見られます。富山市の教育委員会が以前に設置した案内板には、呉羽山礫層についての解説もされています。

この層内の礫は、角がとれて円くなっていることから、川によって運ばれて堆積したことをとらえることができます。

呉羽山山頂から長岡霊園へ向かう道路沿いでは、このような呉羽山礫層のくさり礫を数カ所で観察できます。

風化した花崗岩

風化した安山岩